

「雪のまち」をどう創り直すか

－雪をめぐる市民勉強会－

青森KEN民塾・9月拡大例会／東北地理学会・研究集会

【主催】青森大学櫛引研究室【共催】青森大学附属総合研究所・青森大学社会連携センター

2026年9月29日（火）18:00～20:00

青森市男女共同参画プラザ・カダール：研修室

参加無料 定員50人＋オンライン40人 + Zoom

雪のない季節に雪のことを考える / 若者と未来を語る場をつくる

青森市は2024年から2026年にかけて、2季続けての記録的な豪雪に見舞われ、多大な人的・建造物・産業被害が発生しました。

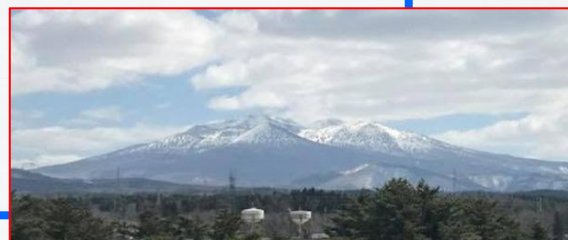
人口減少と高齢化が進み、空き家・空き店舗も増える中で、青森市は今後、どう雪と向き合って暮らせばよいのか。特に、ふるさとに踏みとどまる若者たち、そしてふるさとを離れようとしている若者たちに、何をどう伝えたらよいのか。

「都市政策としての除排雪問題」は、研究事例が少なく、「問題の全容」が意外なほどはっきりしていません。それだけに、対策を行政や除排雪業者に委ねるだけでなく、市民が自ら、「ともに悩み、明日を描く」営みが欠かせません。

青森大学・櫛引研究室は本年度、「雪のまちプロジェクト2026」を進めています。その一環として、他の豪雪都市の事例も参考に、東北地理学会・日本地理学会での報告資料をベースとして、「市民みんなで、雪のない季節に雪のことを考える」場を設けます。

◇主な内容（変更あり）

- ▽青森市の雪をめぐる俯瞰
- ▽除排雪の社会的・経済的・自然環境的な整理
- ▽青森市の雪対策の構造的な課題
- ▽他都市の状況と対比
- ▽その他



主催：青森KEN民塾・青森大学櫛引研究室

共催：青森大学附属総合研究所・青森大学社会連携センター

☆東北地理学会・研究集会

青森KEN民塾は2012年に活動を始めた市民の勉強会です。県内外の有志が会員となり、さまざまな方が集って、年に10回、これまで100回以上の活動を重ねてきました。故中橋勇一さんが運営していた勉強会「市民とマニフェスト：あおり研究ラウンジ」が母体になっています。